

## 厚田学園開校準備委員会 第14回会議【質疑要旨】

- ・日時 令和元年11月7日(木) 18:32～19:40
- ・会場 厚田保健センター 1階多目的ホール
- ・出席者 委員10名
  - ・保護者： 小笠原英史(厚田小・厚田中PTA会長)  
角田由希(厚田保育園父母の会)
  - ・学校関係者： 石橋浩明(厚田小校長)  
丸山真嗣典(厚田中校長)  
青山 司(聚富小中校長)
  - ・学校支援推進員： 小林晴美(厚田中)
  - ・地域の教育関係者： 渡部賢二(旧・望来小学校支援推進員)
  - ・厚田区地域協議会： 築田敏彦(厚田区地域協議会会長)
  - ・学識経験者： 佐藤勝彦(委員長：札幌大学名誉教授)〔委員長〕  
前田賢次(北海道教育大学札幌校准教授・教育方法学)〔副委員長〕

教育課程部会 鬼塚建次(厚田小教頭)、野口俊之(厚田中教頭)  
(学校管理職)

### 事務局

[市教委]

安崎生涯学習部長、佐藤教育指導担当次長、東社会教育担当次長(兼市民図書館長)、  
松永総務企画課長、佐々木学校教育課長、山田指導担当参事、  
相原厚田生涯学習課長(兼厚田支所市民福祉課長)、宮厚田保育園長、  
栗谷厚田生涯学習課主査、西山厚田生涯学習課主査

※欠席2名

渡邊教円 委員(厚田小学校支援推進員)

阿部 保 委員(聚富小中PTA会長)

※傍聴者無し

- 委員長あいさつ(佐藤委員長)の後、会議次第により、次のとおり議事が進められた。
- 事務局の人事異動について、10月12日付けで佐々木教育長(前・生涯学習部長)が就任、及び安崎生涯学習部長(前・総務企画課長)、松永総務企画課長(前・総務企画課主幹)が着任したことを報告した。(→ 安崎生涯学習部長より報告)

● 前回会議の質疑要旨の内容確認

全委員より了承をいただいた。

■ 保護者説明会（11/21）について

- ・本年11月21日（木）の19時より、厚田小学校（2階視聴覚室）にて開催する保護者説明会の内容について、資料に基づきお知らせする旨、松永総務企画課長より説明した。
- ・別紙の資料①「令和2年度石狩市立厚田学園グランドデザイン」及び②「厚田コミュニティ・スクールグランドデザイン CS準備委員会」について、厚田中・丸山校長より説明した。

【質疑応答】

- ・資料①「令和2年度石狩市立厚田学園グランドデザイン」について

（佐藤委員長）

学校教育目標と重点教育目標のほかに、今年度の重点が示されている。これは令和2年度1年間の重点目標だと思うが、次年度（令和3年度）も新たに設定するという理解でよろしいか。というのは、「9年間の学びをつなぎ、夢と自信をもち、可能性に挑戦する児童生徒の育成」は前述の重点教育目標のフレームワークに入るような内容であると感じたので、もう少し具体的な項目も挙げてもよいのではと思ったのだが。

（厚田中・丸山校長）

学校教育目標と重点教育目標は中期的な目標として、しばらくは変えないと考えている。今年度の重点については、まず開校年度の1年間で「つなぐ」をキーワードとして、具体的に生徒に身に付けさせたい、力をつけさせたい資質として、その下に記載している「厚田愛（学）、思いやり・協調性、表現力・コミュニケーション能力」としたところであり、向こう3か年位は「挑戦・つなぐ」というキーワードを入れながら、今年度の重点を一年毎に設定したいと思っている。

（→ 佐藤委員長、了承）

（A委員）

下から3段目「教育課程の実施 どのように学ぶか」の内、「長期休業中の補充学習による繰り返し学習」について、具体的に教えてほしい。

（厚田中・丸山校長）

現在、厚田中において、夏・冬休みの各3日間で、各教科の先生による補充学習を行っており、厚

田学園においても継続していきたいと考えている。コミュニティ・スクール（CS）の導入にあっても、できれば地域の方々に採点（丸付け）の協力もしていただければと考えている。

（前田副委員長）

「学校のお手伝い」というスタンスから、少しずつ「一緒に子ども達を育てていきませんか」という形にしていくことがCSの趣旨であり、それが難しいところだと思っている。

（厚田中・丸山校長）

ありがとうございます。私自身、前任校の経験からも、地域の人材を活用することの難しさを知っているつもりであり、やはり支援していただく地域の方々と、そのような活動の進め方や役割等について、ある程度の事前の打合せは必要だと思っている。

（前田副委員長）

教員が異動で変わっても、地域と協働による学習支援を続けられるのがベストだが、そこまでにはどうしても時間がかかる。そして、体験学習などは教員も一緒に学びながら、教員が地域の生活者としての意識付けが進んでくれれば良いと願っている。

今日、このようなグランドデザインが示されたが、私はこの厚田学園の学校づくりに対する本気度を感じている。子ども達のアンケートや厚田区各校で行われてきた実践が盛り込まれているので、後日開催の保護者説明会の時にはそのことについても触れていただければと思っている。

（佐藤委員長）

今のお話を聞いていて、学校と地域を結ぶ、つなぐ鍵になるのは、やはりCSになるので、学校運営協議会がその橋渡し役となって上手く機能していくことを願っているし、そうなればこのグランドデザインも生きてくると思っている。

（B委員）

下から2段目の「厚田コミュニティ・スクールの取組」のところで、「厚田っ子サポート隊の活用」とあるが、これはCSの活動の中でサポート隊を作って、そのメンバーが放課後学習などを通じて子ども達の学習支援をしていくということか。

（厚田中・丸山校長）

はい、そうです。

（佐藤委員長）

都会の子ども達は、大半が塾に通っているが、厚田も含めて塾が無い地域では、話にあったような放課後学習ができる仕組みを作ってフォローしていくということになると思っている。基礎学力をつけるためには勿論、家庭での学習は大事だが、みんなで学び合う空間（場所）や時間を確保することができればいいなあと思っている。

このランドデザインは、今後様々な機会で見ることになるので、その回数を重ねながら私達も理解を深めていきたい。

(→ 全委員、了承)

・資料②「厚田コミュニティ・スクールランドデザイン CS準備委員会」について

(佐藤委員長)

資料2ページの「めざすイメージ」のところで、「(子どもが) 通いたい学園」「(地域・保護者が) 通わせたい学園」「(教職員が) 勤めたい学園」という記載は、夢があり素晴らしいと感じた。

3ページの「厚田コミュニティ・スクールの目標『子どもの夢を地域みんなで支えよう』～厚田に誇りを持ち「チャレンジする心」を育む」を、厚田区全ての人が共有して実現できることを希望したい。

(→ 全委員、了承)

以上、11月21日開催の保護者説明会の資料、内容について、了承された。

■ その他（事務局より）

① コミュニティ・スクール（CS）研修会の開催報告について

10月30日（水）に望来コミュニティセンターにおいて、64名の参加を得て開催。新・石狩八幡小学校の関係者も含め、多くの参加をいただいたことについて謝意。

② 厚田学園の校歌について

本日の資料において、作詞：伊藤 潮さんによる校歌の歌詞を掲載した。第12回会議（5/29）で、作詞者・作曲者の承認をいただいた後、今日まで数回の打合せを行い、作曲：高橋たい子さんによる曲（楽譜）づくりが大詰めの段階になっている。次回会議において、音源と歌詞の解説等をお示しする予定である。

(→ 上記①②について、松永総務企画課長より報告し、了承をいただく。)

③ スクールバスの運行（厚田保育園の園児混乗の可否検討）について、相原厚田生涯学習課長より、次のとおり説明した。

・厚田学園内に厚田保育園が併設することに伴い、かねてより保育園児をスクールバスに便乗できるように検討してほしい旨の要望をいただいていた。市教委では平成28年12月に、当委員会の委員に対し、児童生徒の登下校及び学校活動のために運行することを第一の目的としたスクールバス

の運行の範囲内であれば、便乗できるように考えたい旨の回答している。

・前回会議（第13回）では、上記の回答をふまえて、これまでの検討を一步進め、現況でのバス配置や運転手の人員（学校給食の配送を含む）、運行形態、今後の通学見込者などを総合的に見通したうえで、市教委としてスクールバス運行の範囲内で、保育園児を便乗できる方法を前向きに検討したが、下校便との兼ね合いなどの理由により、非常に難しい旨をお伝えしたところである。

・その後あらためて、市教委では市長部局（保育園を所管する保健福祉部）と協議し、学校と保育園が同一施設になるので、なんとか工夫をして保育園児の便乗ができないかを検討、シミュレーションを行い、その可能性を探ってきた。しかしながら、学校と保育園はそれぞれ性格・目的が違う施設であり、バスや人員、学校の登下校時間といった物理的条件が変わらなければ、第一の目的となるスクールバスの運行に無理が生じてしまうため、保育園児の便乗は極めて困難であるという判断をせざるを得ないことについて、ご理解をいただきたい。

#### 【質疑応答】

（B委員）

保育園児の便乗は難しいとのことだが、「朝だけでも対応してほしい」というのが本心である。例えば、望来地区の保護者間で協議して、毎日の添乗員を保護者において交代で対応するといった場合、認めてくれる余地はあるのか。

（相原厚田生涯学習課長）

スクールバスの運行に影響が出なければ、その余地はあると思っている。中学生（後期課程）の部活が有る日、無い日とか、学校行事で下校便の時間が変更になるなど、いろいろなパターンがあり、その調整をどうしていくかが大きな課題であることを理解していただきたい。

（→ B委員、了承）

#### ※ その他

（C委員）

厚田学園の建設工事の進捗状況と、当委員や地域・保護者等を対象にした見学機会を設けるのかお聞かせいただきたい。

（松永総務企画課長）

現在、全体の8割程度の進捗となっている。

見学機会の設定については、11月13日に厚田区各学校の校長と教頭先生に現時点の状況を見ていただくほか、11月19日（火）の午後に、厚田学園の通学児童生徒の保護者を対象に視察見学会を行うこととした。これは、聚富小中の児童生徒を対象にした通学先意向調査を11月下旬に行

うため、対象保護者の検討材料としていただきたいという目的も含め、急遽行うこととしたものである。当委員会の各委員の皆様には、来年1月末の工事完了、引渡し後に、別途見学会を行う予定である。

(→ C委員、了承)

(D委員)

厚田保育園の保護者説明会はあるのか。

(宮厚田保育園長)

現時点では未定だが、今後開催するかどうかについて検討していく。

(→ D委員、了承)

(E委員)

通学路とスクールバスについてだが、小学生（前期課程）の児童は、自宅から学校（厚田学園）までの距離が今よりも長くなり、厚田・別狩地区の徒歩通学の子ども達のが気になるっており、特に冬季間の国道231号沿い（カーブから校門までの直線の坂）は危険だと思っている。

(安崎生涯学習部長)

冬季間の通学については、天候状況を見ながらスクールバスに乗車できるようにすることも含め、柔軟な対応を行う方針で考えている。

(E委員)

天候が良い日は徒歩で通学するとした場合、具体的には学校プールの横からグラウンドを横断できるようにしないと、国道231号にガードレールを設置するかしないかに関わらず、子ども達の安全を確保できないのではないだろうか。

(F委員)

保護者説明会では、とても気になる部分だと思うので、事務局で整理した上で保護者に納得してもらえるよう対応してほしいと思う。

(→ 事務局、了承)

閉 会

会議録署名

上記会議の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和2年1月29日

厚田学園開校準備委員会

委員長 佐藤勝彦